

<2015年度 年間目標>

- ・安心して過ごす中で遊びを見つけ、繰り返し楽しむ。
- ・友だちとの関わりの中で喜びを味わう。また葛藤を経験し受け入れたり、乗り越えていく力をつける。

<一学期の保育の視点(願い)>

- ① イースターで復活されたイエスさまが一人ひとりと共にいて下さること、愛して下さっていることを礼拝を守る中で知り感謝する。
- ② 保育者に受け入れられていることを感じ、安心して過ごす。
- ③ 自分の好きな遊びを見つけ、繰り返し楽しむ。
- ④ 遊び、集い、生活の中で保育者や友だちといっしょにすることが楽しい嬉しいと感じる。
- ⑤ 身のまわりのことを自分でする意識を持ち、必要な生活習慣を身につけていく。
- ⑥ 春から夏の自然の営みを五感で感じる。

自分の好きな遊びを見つけ、繰り返し楽しむ中で 一学期の保育の視点③より

年中組の子どもたちは一つ大きい組になったことを喜び、張り切って過ごしています。4月、すみれ組に7名の新入園児を迎え、新たな園生活が始まりました。

最初の10日ほど、新入園児のAちゃんは一人で貝や石を探し集めながら、周りで遊んでいる子どもたちの様子をじっと見ていました。

ある日、Aちゃんは誰かが掘り残した砂場の穴を見つけました。Aちゃんはその穴をじっと見て、水を入れたくなったようでした。ジョウロに水を汲み、穴の中に「ジャー」と流します。水はあっという間に浸み込んでいきます。Aちゃんは「もう一回してみよう」ともう一度、水を汲みに行きました。今度は、少したまっています。Aちゃんは嬉しくなって繰り返し水を流し込みました。

Aちゃんの隣では、BちゃんとCちゃんが山を作っていました。大きいシャベルで砂を掘り上げては、山にかけていきます。「富士山みたいに大きくしよう」「もっと固くした方がいいよ」「白砂もかけよう」「水で固めよう」などと言いながらつくります。

Aちゃんは、BちゃんとCちゃんが作る山をじっと見ていました。それから裸足になり、自分で作った池の中に足を入れました。私がAちゃんに「まあ、Aちゃんの池は大きくなったわね。裸足になって気持ち良さそうね」と声を掛けると、

「冷たくていい気持ちだよ」と言います。

40分くらい経った頃です。Cちゃんが「高い山ができた～」と満足そうに言い、「ちょっと行ってくるね」と、三輪車に乗りに出かけました。BちゃんはCちゃんが他のところへ行っても、その山での砂遊びを続けていました。Bちゃんは山の上から水を流しました。すると、水が滝のように流れ、新しい川ができました。山の下には水がたまっています。Bちゃんは、もう一度水を汲みに行き、上から流し込みました。Bちゃんは水を流すことで山の形が変わっていくことを楽しんでいるのです。

Bちゃんが水を汲んでは流す姿をずっと隣で見ていたAちゃんは、自分からジョウロに水を入れに行きました。そして、今度は自分の池ではなく、Bちゃんの山にその水をそっとかけたのです。いきなりのことでしたが、BちゃんはAちゃんの顔を見てにっこり笑い、今度はいっしょに水を汲みに行きました。その後もAちゃんとBちゃんは二人で水を汲み、ジャーッと流しては、山の下にたまった水の中に足を入れて遊んでいました。

Aちゃんは一人で自分のしたいことをじっくり楽しみながら、周りの様子を見て心を動かしていました。したいことを繰り返す中で、友だちと出会いつながっていきました。このようなつながりがそここで見られています。



友だちや保育者といっしょに散歩に出かける姿から

一学期の保育の視点④より

4月23日に年中組では、水沢の森へ遠足に出かけました。進級児のこれまでの遠足は保護者の方といっしょに行っていたので、保育者とクラスの子もとで歩く初めての時でした。そこで事前に何度か近隣の散歩をしました。

子どもたちに散歩へ行く話をすると、Dちゃんは「やったー、楽しみだね」と大喜びでした。さっそくリュックサックを背負い、友だちと二人組を作って並びました。少し遠回りしてカバ公園に着くと、たんぽぽが咲いていたり、蝶々が飛んでいたり…子どもたちは春の自然を目にし、「お散歩って楽しいね」「探険だね」「あの木の下でお弁当を食べたら素敵だね」などと心を弾ませていました。いつもお家の方と通っている道ではありますが、子どもたちにとって自分たちで歩いて来たことがとてもうれしい経験になりました。

遠足当日は水沢の森でお母さんと待ち合わせをすることになっていた為、子ど

もたちは数人のボランティアの方々と一緒に出かけました。園庭で年長組の子どもたちや先生たちに見送られ、嬉しそうに出発しました。私は楽しそうに道を歩く子どもたちの姿に成長を感じていました。これからも子どもたちと共に歩くこと、自然を感じて過ごすことを重ねていきます。

この時期、張り切って過ごす一方で疲れが出やすくなったり、新しい環境に不安や緊張を感じる子どもたちがいます。子どもたちが安心して過ごしていけるよう、また自分を出していけるよう支えながら、一人ひとりの子どもたちと信頼の関係を築いていきたいと思っています。新しく入った子どもたちとは、少しずつ園生活に慣れていけるようにと園内を探検する時をもったり、少人数でゆっくり過ごすことを心掛けた4月でした。

子どもたちは、これから園生活の中で、思い通りにならないことがあったり、葛藤を感じたりする時があるかもしれませんが、一つひとつが子どもたちにとって意味のある時となるよう見守り、支えていきたいと思っています。

(藤野 佳代)